

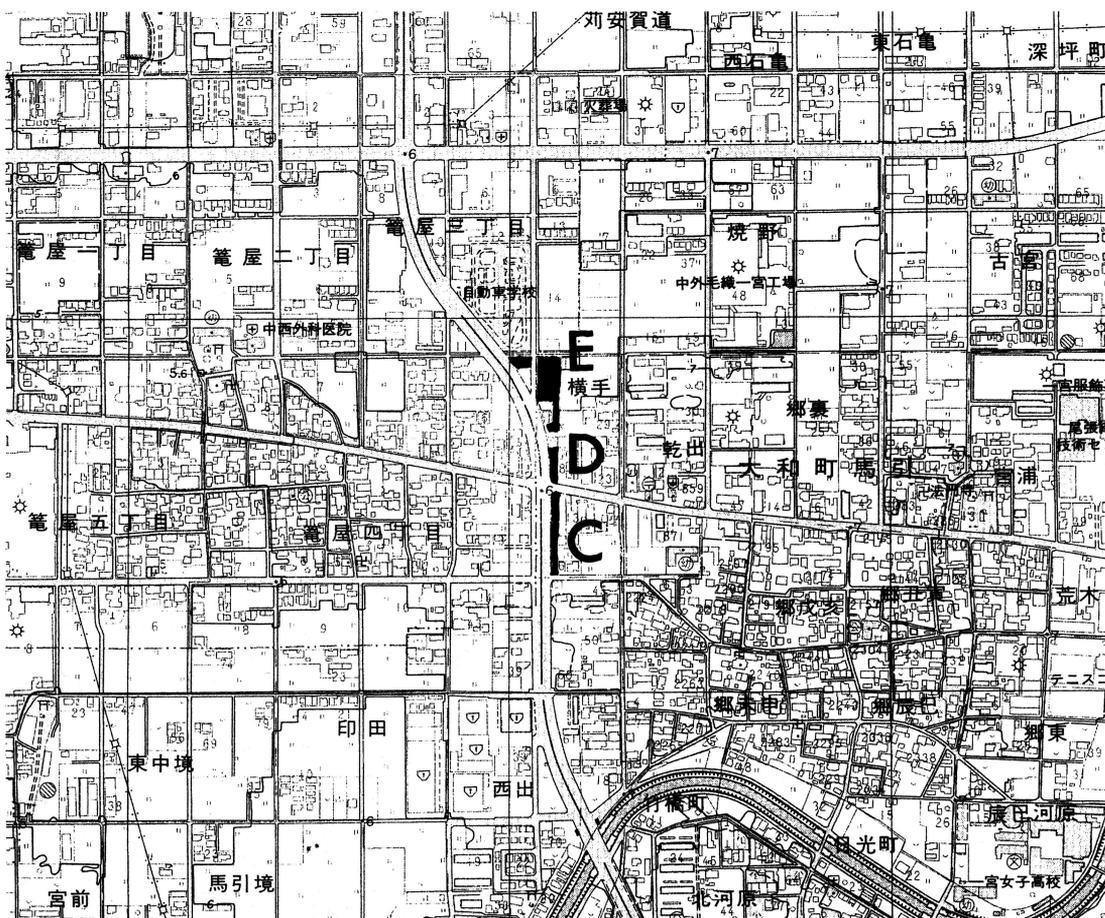
まびきよこて  
馬引横手遺跡

**調査の経過** 馬引横手遺跡は、一宮市大和町馬引字横手から尾西市籠屋にかけて広がる遺跡で、木曾川水系日光川上流域に形成された標高6m前後の自然堤防及び後背湿地上に展開している。

本遺跡は、中世の遺物散布地として県遺跡番号 02097で登録されている。本遺跡の南の日光川左岸には鎌倉時代から室町時代の遺物散布地として知られる毛受遺跡（県遺跡番号02098、一宮市大和町毛受）や、本遺跡の東側、起街道沿いには法圓寺中世墓遺跡（県遺跡番号02077、一宮市大和町馬引）が、また、北には、縄文時代の遺物散布地である東荊安賀道遺跡（県遺跡番号07005、尾西市開明字荊安賀道）が存在する。

今回の調査は、東海北陸自動車道建設に伴う事前調査として、日本道路公団及び愛知県土木部より愛知県教育委員会を通じた委託事業として昨年度より実施している。本年度は西尾張中央道の東側で4,960㎡を、C区～E区の3つの調査区に分割して実施した。調査期間は平成8年4月から平成8年10月である。

（小泉 渡）



第1図 調査区位置図（1：10,000）

**C区の概要** まず室町時代の遺構としては、調査区北側（C a区）では東西方向の溝が規則的に並ぶ様子が確認できた。ただ区画内では堀立柱建物は検出できたものの、井戸は確認できなかった。これは昨年度に比べると調査区の東西幅がかなり狭いことが影響していると思われる。また遺物の出土量も昨年度に比べるとかなり少なかった。他方、調査区南側（C b区）では遺構、遺物ともほとんど確認できず、ここがこの時期の遺跡の南限と思われる。

ただ、C a区では下面の遺構を確認できなかったのに対して、C b区では昨年度の調査との関連で興味深い事実を確認することができた。C b区の南西端が微高地状に高くなっており、その北側の低い部分に古墳時代の遺物がまとってみられることである。湿地的な堆積をしており、遺物も周辺から流れ込んできたものと思われるが、昨年度の遺物と同時期のものである。さらにその北側には溝状の落ち込みがあり、遺物は出土しなかったものの、堆積状況から昨年度確認された縄文時代の谷地形との関連が考えられる。

**D区の概要** 調査区南側（D b区）は大部分が攪乱であったが、南側が一部分残っており、そこではC a区と同様に溝・土坑が展開している。下面の遺構は確認できなかった。

**E区の概要** D区北側（D a区）およびE区南側では、C a区と同様に東西方向の溝に区画されて土坑などが展開する様子が確認された。

その一方でE区北側では遺構・遺物ともにきわめて希薄で、東西方向の溝も検出されなかった。遺跡の北限ではないかと考えられるが、注目すべき点は、西側で南北方向の溝が検出されていることである。調査区内ではこの南北の溝と東西方向の区画溝とのつながりを確認することはできなかったが、この南北の溝がおそらく道となって、東西の溝とつながって短冊型の地割を形成しているのではないだろうか。

**まとめ** 馬引横手遺跡において短冊型地割状に室町時代の遺構群が展開する様子が確認できたことは、この地域の中世史を考える上で貴重な資料を提供できたと思われる。また古墳時代、縄文時代に関しても今回の調査でははっきりとした遺構は確認できなかったものの、周囲に集落があったこと可能性を十分考えることができると思われる。

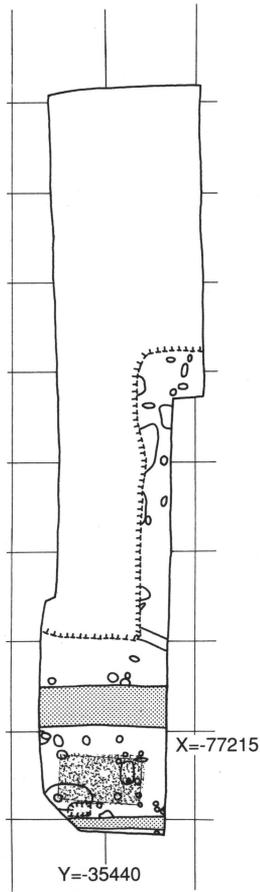
(伊藤太佳彦)



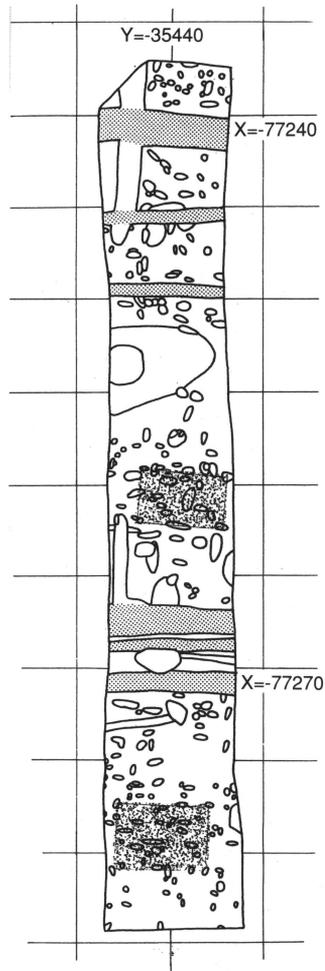
遺物出土状態 C b区



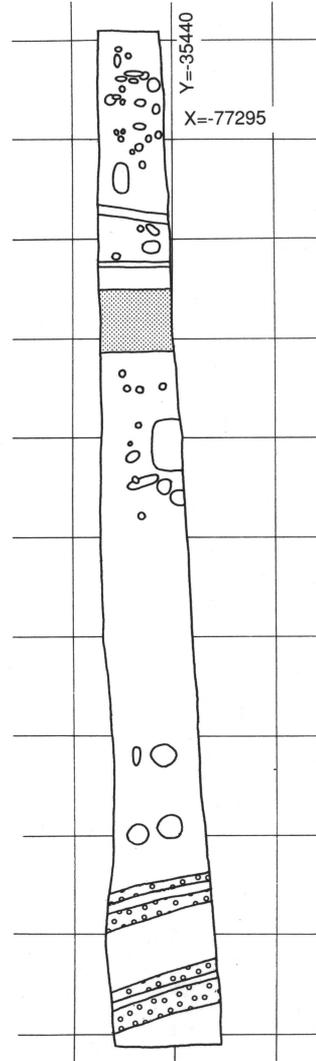
遺物出土状態 C b区



第2図 D b区



第3図 C a区



第4図 C b区



C a区 (北から)

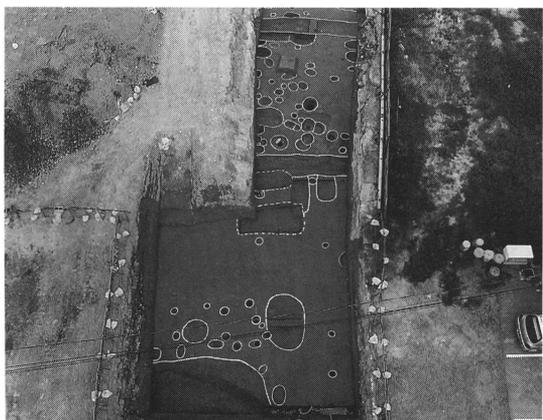


遺物出土状態 (E a区)

第5図 E a区



遺物出土状態 (E a区)



D a区全景 (南から)

